

総合的な学習の時間の実践

札幌市

総合的な学習
4年

地域に流れる川を学習教材に

山本川再発見！

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



4年生の社会科で、「水のゆくえ」「ゴミ」など、環境に関する学習があります。それらの知識を土台に、諸感覚を使っての調査活動を含んだ環境学習ができます。川についての専門的な知識をもつ、さけ科学館の学芸員の方にも協力をお願いしながら、川とじっくり向き合い、探究しながら川の魅力を探る学習にしました。

学習活動の流れ（33時間）

山本川って？知っていることある？（1）

山本川に行ってみよう（3）

- ・え？これが川？水は？生き物は？

山本川についてたくさんの発見をしよう（13）

- ・いろんな場所の水を汲んでみよう！
- ・どんな生き物が見つかるかな？
- ・どこまで続いているのだろう？
- ・発見報告会をしよう。もっと調べたいことは？

教えてください！岡本先生（2）

- ・こんな事を調べてみたいのだけれど…

もう一度山本川発見だ（12）

- ・水質を調べてみよう
- ・生き物は何を食べているのかな
- ・どうしてこんなに水草が？

教えてください！岡本先生（1）

- ・生き物も植物も水も互いにかかわりあっているよ

つながりをつけながら調べてみよう（1）

- ・汚れは生き物にとって大切なものなんだ

色々な発見がマップに表されていくことで「もっとこれを調べたい」という思いをもつことになりました。

より専門的な追究を目指して、生き物の採取方法や水質調査の方法について学び、それまでの発見活動から追究活動へと変わっていきました。

専門家の知識を交えることで、汚れの原因⇒有機物⇒プランクトンのえさ⇒魚のえさと、水、プランクトン、魚の追究がつながりました。

校区を流れる山本川は、近くにあります。子どもたちにとって身近ではありません。そこにじっくりかかわり、課題を見つけ、追究する学習です。

川を素材に追究の視点を広げ、深めていきます。



山本川にて

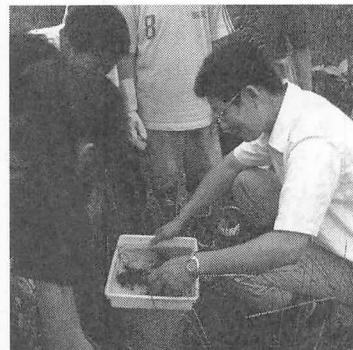
教材・活動の Point!

1. 教材にたっぷり触れることから課題を

全体を3つの内容に分け、学習します。はじめの17時間は、川を身近にするために、たくさん発見をさせます。水を汲んでみたり、とにかく下流まで歩いてみたり、生き物を探したりと思い思いの活動を進めることで、もっと詳しく調べてみたいと思う課題をつかませていくのです。

2. 川の専門家の知識が追究を支える

川を題材にすると、そこに棲む生き物や植物、水質や近隣環境とのかかわりなどへと追究は広がっていきます。内容が専門的になってきたら、このままでいいのか、別の方向から追究を進めるべきなのか、専門家に方法を教授してもらうと、活動が価値付き、深まっていきます。



3. 追究に深まりを生むマップ

同じ川が対象なので、課題は互いにつながりがあるものです。そこで川マップを作り、様々な発見を綴っていました。個々の追究の関係性に気付かせることで、解決に役立つ情報を友達から学んだり、一緒に進めたりすることができ、山本川全体を知ることにつながっていったのです。

